

厚生労働科学研究費（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
喫煙室の形態変更に伴う受動喫煙環境の評価及び課題解決に資する研究
分担研究報告書

喫煙可能店を禁煙店に変更した施設の情報収集と分析

研究分担者 伊藤 ゆり 大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室 准教授

研究要旨

令和元(2020)年 4 月に改正健康増進法および東京都受動喫煙防止条例が施行となり、東京都では約 8 割以上、他の地域では約半数の飲食店において、屋内完全禁煙または喫煙専用室の設置が義務化された。本研究では喫煙可能店から禁煙店に変更した施設の業種や施設の状況、設備の実態、禁煙化時の設備面、運用面やコンプライアンスに関する課題に関する聞き取り調査を行い、禁煙化の後押しとなる情報を取りまとめる。令和 4(2022)年度は、喫煙可能店から禁煙店に変更した飲食店への聞き取り調査やインターネット調査に基づく受動喫煙対策と新型コロナウイルス感染症対策に関する情報に関し、情報提供媒体を作成した。

A. 研究目的

令和元(2020)年 4 月に改正健康増進法および東京都受動喫煙防止条例が施行となり、東京都では約 8 割以上、他の地域では約半数の飲食店において、屋内完全禁煙または喫煙専用室を設置が義務化された。

喫煙可能店から禁煙店に変更した施設の業種や施設の状況、設備の実態、禁煙化時の設備面、運用面やコンプライアンスに関する課題に関する聞き取り調査を行い、禁煙化の後押しとなる情報を取りまとめる。

令和 4(2022)年度は、喫煙可能店から禁煙店に変更した飲食店への聞き取り調査やインターネット調査に基づく受動喫煙対策と新型コロナウイルス感染症対策に関する情報に関して情報提供媒体を作成し、喫煙可能飲食店への働きかけを行う資材とする。

B. 研究方法

禁煙化を検討している飲食店の後押しとな

るための資料として、2020 年 4 月以降に禁煙化に踏み切った禁煙が難しいとされるバーなどの事例やチェーン店の事例について、インタビュー調査を行い記事として取りまとめ、飲食店経営者向けのメディアにおいて配信した。コロナ禍における感染対策との関連や禁煙に関する工夫について、取りまとめ、情報を整理し資料を作成した。冊子の執筆にはメディアライターや研究者、構成には PR 企業の協力を得た。

C. 結果

Foodist media

禁煙化が難しいとされるエリアである新宿駅にあるビール専門店における禁煙化のエピソード、禁煙化が難しいとされる業種であるオーセンティック・バーにおける禁煙化のきっかけや状況に関して聞き取りを行い、まとめてもらった。また、飲食店向けの情報発信媒体であるため、禁煙化に伴い

飲食店が最も気になる売り上げに関する情報を聞き取ったお好み焼きチェーン店の内容についてもまとめた。[1]この記事へのアクセス状況は公開後1か月で約3000PVであったが、平均滞在時間は10分以上であり、じっくりと内容を読んでもらっていた。また、SNSでのシェアは196回に上った。Twitterでのインプレッションは974であり、同サイトの人気記事が208であるのに対し、かなり大きい値となった。エンゲージは51となり、同サイトの人気記事では9、インプレッションが多い記事でも25であるのに対し、2倍以上となった。

(別添資料1)

Buzzfeed Medical Japan

禁煙化が難しいとされる業種として、立ち飲み屋[2]とスナック[3]の禁煙化に関する聞き取りをまとめてもらい、関連記事としてWebでも公開された。公開後1か月間で立ち飲み屋の記事は約1.3万PV、スナックの記事は約5000PVであった。記者個人のTwitterでの表示回数は立ち飲み屋で1.9万、スナックで2.5万であった。インプレッションは、それぞれ約300、約10000であり、リツイート数はそれぞれ21、11と高い傾向にあった。

(別添資料2,3)

飲食店向けの冊子

上記の記事に加え、改正健康増進法の解説や禁煙化の動向、飲食店における感染対策、また受動喫煙対策に関するクイズ形式の記事をまとめ、PDFおよび冊子を作成した。PDFおよびWeb形式において、サイトに公開した。[4]

(別添資料4)

D. 考察

禁煙化が困難とされる業種に関して、禁煙化の経緯や禁煙後の客の反応に関して、具体的に店主からの聞き取りをまとめることで、現在、禁煙化に踏み切ろうか悩んでいる飲食店に向けての働きかけとなる内容になったと思われる。飲食店向けの媒体や人気インターネットニュースサイトに掲載してもらうことやSNSでの拡散により、飲食店へのリーチを図ることができた。今後、本冊子を自治体の担当部局に喫煙可能店として登録に来た飲食店関係者に配布してもらうなどして、禁煙化に踏み切れない飲食店に対するアプローチを行う。

本冊子による効果がどの程度であるかについても、冊子提供先への聞き取りなどを通して検証していく必要がある。

E. 結論

禁煙化に踏み切れていない飲食店に対し、禁煙化を働きかけるために、インターネットのメディアを介して発信を行った。また内容を取りまとめた冊子を作成した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表 (本研究に関連するもの)
なし

2. 学会発表

浪花和紗, 片岡葵, 西岡大輔, 村木功, 中村正和, 大和浩, 伊藤ゆり: 飲食店における

喫煙環境と従業員の新型コロナウイルスワクチン接種状況. In: 第 81 回日本公衆衛生学会総会: 2022/10/8 2022; 山梨, YCC 県民文化ホール: [Poster]; 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況

この研究において、知的財産権に該当するものはなかった。

別添資料

1. 飲食店ドットコムジャーナル. 飲食店 3 店舗が語る“禁煙化”がもたらす長期的なメリット。売上アップに成功の店舗も！
<https://www.inshokuten.com/foodist/article/6505/> (2022 年 06 月 16 日 公開)
2. 岩永直子. BuzzFeed Medical Japan.
「吸う人も吸わない人も来てくれるようになった」大阪・天満の角打ちが禁煙にした理由
<https://www.buzzfeed.com/jp/naokoiwana/ga/quemlin-tenma> (2023 年 4 月 14 日 公開)
3. 岩永直子. BuzzFeed Medical Japan.
「他の店と差別化を図るために禁煙に」大阪・北新地のスナック「蟻地獄」の経営戦略.
<https://www.buzzfeed.com/jp/naokoiwana/ga/quemlin-arijigoku> (2023 年 4 月 17 日 公開)
4. コロナ禍の飲食店 受動喫煙対策 Book.
https://quemlin.com/pickup/idea_20230412.html (2023 年 4 月 12 日 公開)



別添資料1

powered by

ログイン

記事を検索



メール購読

食の世界をつなぐWebマガジン

データで見る飲食業界 食の仕事人 食の体験レポート 飲食ニュース・トレンド

飲食店経営のノウハウ 飲食店ドットコムトピックス

powered by

ログイン

[トップ](#) > [飲食店経営のノウハウ](#) > 記事

飲食店3店舗が語る“禁煙化”がもたらす長期的なメリット。売上アップに成功の店舗も！

PR

2022年06月16日 (2022年06月16日 更新)

飲食店経営のノウハウ

ツイート

シェアする 198

1



1



フォローする 4.2万



— 2020年4月より全面禁煙に踏み切った新宿『フリゴ』。店の入口には「全席禁煙」の案内が

2020年4月1日に施行された「改正健康増進法」に伴い、飲食店は原則屋内禁煙となった。しかし、2020年4月1日時点で営業しており、資本金または出資の総額が5,000万円以下で、店舗の客席面積が100平方メートル以下であれば、店内の全部または一部を喫煙可能とできる経過措置が取られている。そのため、「改正健康増進法」施行から2年が経過した今も、喫煙可能な飲食店は数多く存在する。

禁煙化で働く人の健康を守れ、かつ来店客の過ごし方にも嬉しい変化が

「お酒と喫煙って、やっぱり切り離せないと思うんですよ」と打ち明けるのは新宿駅南口、甲州街道沿いでベルギービール専門店『フリゴ』の店長を務める荒木健一郎氏。お酒が主体の店ということもあり、以前は全席喫煙可能で、来店客の3〜4割が喫煙者だった。アイリッシュパブという雄々しいイメージ、そして客層は30代後半〜50代の男性が多いというのも喫煙者の割合が比較的高かった理由かもしれない。週末ともなると、タバコの吸い殻がトマト缶いっぱいになるほど喫煙者が多かった。しかしここ5〜10年ほどで、客の声にも変化が見られたという。



— 『フリゴ』の店長を務める荒木健一郎氏

「『横の人がタバコを吸っているからこの席は嫌です』とか『タバコの臭いが漂わない場所はどこですか』という副流煙を嫌う声が増えつつ」と喫煙に対する懸念の声が増えてきていたと話す。さらにこういった声は働くスタッフからもあった。「カウンターの人がタバコを吸っているから、その人の前に立ちたくない」「タバコの臭いがつくのが嫌」などの意見が増え、荒木氏は段々と禁煙化について考えるようになったという。

「ここ数年で喫煙者の数自体が減っているという実感もあり、禁煙化のタイミングを窺っていて。2020年4月の法律施行を機に禁煙化に踏み切りました。同じように法律の施行があったから、禁煙に変えられたというお店も多いと思います」



— 禁煙化にあたってはSNSでの告知のほか、店内や店外のポップで「全席禁煙」と周知

気になるのは、禁煙化による客入りや売上の変化だ。とはいえ禁煙化してすぐに緊急事態宣言が発出されたため「正直わからない」と話す。喫煙者からの反応について何うと、

「『タバコが吸えなくなりましたか?』と聞かれることもあって。そういう人たちの1~2割は喫煙できないと知って帰っていきますね。嫌味っぽく『もう来ない』と言われたこともあります。これまで2~3杯お酒を飲んでいた人が1杯飲んで『吸えないからほかのお店に行く』ということもありました」

と、やはり懸念していた事態も少なからず起こっているという。実際、店から徒歩2~3分の場所には全面喫煙可能な飲食店もあり「タバコを目的としている喫煙者はそちらに流れているのではないか」との見方を示す。

そんな喫煙者からの声がありつつも荒木氏は「禁煙化して良かった」と、今回の自身の決断に納得感を示す。その理由について尋ねると「やっぱりタバコの煙に邪魔されることなく、もっと純粋に食事やビールを味わってもらいたい」という思いがあった。

実際、禁煙化以前より来店していた非喫煙者の方が頻繁に訪れるようになったり、滞在時間が延びたり、よりよく使ってもらっているという実感があると話す荒木氏。働くスタッフからも「快適に働けるようになった」という声が聞かれ、改正健康増進法の目的であった「働く人の健康を守る」を達成できているようだ。



- 店内にはベルギーを中心にヨーロッパのビールを常時160種類並び、専用のコースターとグラスでビールが提供される

禁煙化でファミリー層が増え、客単価や売上がアップした飲食店も

禁煙化に踏み切ったことで、売上がアップしたという飲食店も少なくない。大阪をメインに、全国で75店舗を展開する1973年創業のお好み焼専門店『千房』グループも、客単価や売上がアップした飲食店グループの一つだ。代表取締役社長の中井貫二氏は次のように話す。

「禁煙化することで売上の減少を懸念していましたが、こちらが心配していたほどの売上や客足減少はなく、むしろファミリー層の利用が圧倒的に増え、店舗によっては客単価や売上が上がりました」



— 千房株式会社・代表取締役社長の中井貫二氏。取材はオンラインで実施した

『千房』グループでは全店舗で禁煙化したところ、1日あたりの売上が平均で4.9万円増加（17.5%増加）しており、特に高級路線の店舗で売上の増加が大きかったというデータが出ている。お好み焼きと鉄板焼のステーキハウス『ぶれじでんと千房』やお好み焼と創作鉄板料理を提供する『千房エレガンス』など高級路線の店舗で売上増加が顕著だという。

この理由について「タバコの煙を気にせずゆったりできる環境整備ができたことで、滞在時間と注文数がアップしたのではないかと」中井氏は推測する。

今でこそ売上減少などの懸念点が払拭され、順調な経営を行う『千房』だが、当初社員からの禁煙化に対する反発は大きかったという。

「社員からは『禁煙化したら、半分以上のお客様が来なくなってしまいます』と断言されたりもして。従業員自体の喫煙者も多く、なかなか理解を得るのに時間がかかりました」

そこで中井氏は、禁煙化を求めているという消費者の声や、いろいろな飲食店経営者の方に伺った禁煙化によるメリットを社員へ伝え、理解を得ていった。

「世の中的に『タバコを吸っている人がいるお店に行きたくない』『タバコを吸っている人の隣に座りたくない』という声もありましたし、そういったニーズに応えていくのは当然かな、と。特に『串カツ田中』さんが全店禁煙化されたことについては世間の反応も大きかったので『企業のブランドイメージを保つためにも禁煙化は有効だ』と一つの説得材料にしましたね」

徐々に社員の理解を得て、8年ほど前から段階的に店舗の禁煙化を進めていった中井氏。社員にヒアリングし、ファミリー層やインバウンドの来店客が多く、禁煙化の影響が少なそうな店舗から段階的に禁煙化を始めた。



一 『千房』の店内。テーブルには「禁煙」の案内が（写真提供：大阪医科薬科大学 伊藤ゆり氏）

その後2020年4月、全店舗を禁煙化。「法改正がなかったら舵を切れなかったかもしれません」と中井氏が話すことから、「改正健康増進法」施行が禁煙化の後押しとなったことも窺える。

禁煙化したことで「働くスタッフの観点からも、間違いなく良かった」と断言する中井氏。アルバイト従業員は20代前半の女性が多いということで、禁煙化に喜ぶ声が多く聞かれるという。

「弊社ではスタッフとお客様のコミュニケーションを大切にしており、“お好みケーション”という独自の言葉を使っています。お客様の目の前で、お好み焼きを焼き上げるときに生まれる会話もその一つ。しかし、吸排気システムがどんなに充実していたとしても、喫煙者の目の前で調理する従業員を副流煙から守ることは難しかったんです。そういう点でも今回禁煙化したことで、安心して従業員とお客様が“お好みケーション”できるようになったのではないかと感じています」

喫煙者からの反応も気になるところだが「世の流れだからしょうがないよね」と一定の理解を示す人が多いという。今後さらに中井氏は従業員の健康を守る「健康経営」を標榜し、会社内での禁煙化も進めたいと話す。

「個人的にタバコの灰がついた手で作られた料理を食べたくなくて。5年前からバックヤードは禁煙にしていますし、タバコを吸った後は徹底的に手を洗うよう厳しく伝えていますが、従業員の健康を守るためにも会社全体で禁煙化を後押ししていきたいですね」

「喫煙可能でも禁煙でも客足は変わらない」感染症対策も後押しとなり禁煙化

禁煙化に転じた経緯は「法改正を機に」という飲食店が多い中、異なる理由で禁煙化に踏み切った飲食店もある。大阪・高槻で1991年に創業したオーセンティックバー『福田バー』だ。

「大阪府から喫煙者は店内の一角所にまとめるよう要請があり、新型コロナウイルス感染の危険性が高まると感じ、全面禁煙に踏み切りました」と、感染症対策の一環で禁煙化したと店主の福田豊氏は明かす。実際、店舗の入口には「コロナ対策のために禁煙しています」という張り紙が掲示されている。

「いずれは禁煙にせなあかんと思っていたのですが、周りに気を遣いながら吸ってくれる常連さんもいて、なかなか踏み切れず。とはいえお店の構造上分煙も難しいし、タバコの煙が非喫煙者の方に行かないよう気遣うのも嫌で。今回のコロナ禍を機に2021年11月に全席禁煙にしました



一 大阪・高槻のオーセンティックバー『福田バー』の店主・福田豊氏。取材はオンラインで実施した

オーナーからは「儲からないし、禁煙は反対」と言われたそうだが、ギャルソンやバーマンなど現場のスタッフからは「禁煙に賛成」という声が聞かれ、後押しとなったという。

禁煙化と合わせ、アクリル板やビニールシートを設置するなど、感染対策も徹底。完全禁煙の飲食店は、こうした感染症対策に対しての自己評価も高く、自信を持ってお客さんを迎え入れているという見方もある。

バー業態は喫煙可能な店が多い中、禁煙に踏み切ったことでデメリットはなかったかと尋ねると「禁煙にする前ぐらいから喫煙者も2〜3割に減っていましたし、特になかったです」と福田氏。

「タバコを吸う人とか、たくさん飲んで騒いだりする人の方がお酒も頼むので、禁煙にしたら売上はちょっと減るだろうと思いましたが、別にそんなのいいかなって。実際、禁煙にしてから『吸えないならほか行くわ』っていう人もいましたが、そういう人は別に来てもらわなくていいかな、と。もしお店に本当に来たいなら、1〜2時間くらい喫煙を我慢してくれると思いますので」

禁煙化後の客足も気になるが「タバコを吸う人がいっぱいいたら、吸わない人が来なくなるので、結局喫煙可能でも禁煙でも客足は変わらないと思う。サービスするならマナーの良い人たちにしていきたい」と福田氏。その真摯な姿勢は常連にも伝わっているのか、マナーの良い喫煙者は禁煙になってからも来店しており、外の喫煙所でタバコを吸うなどしてお店では喫煙していない。

禁煙化はスタッフからも評判だ。「以前より快適そうに働いていますね。喫煙可能な時代は、スタッフのマナーの悪い喫煙者に注意しなくてはいけませんでした。そういったトラブル自体減ったので、スタッフの負担も減ったと思います」と禁煙化に伴い、店の風紀も良くなったと話す。『福田バー』の一連の対

策は、感染症や受動喫煙から従業員や来店客の健康を守るだけでなく、トラブルを防ぎ、お店で過ごす人たちに安心・安全に過ごしてもらつための心がけにも思えた。



一 『福田バー』の店内。アクリル板を設置するなど感染症対策も徹底（写真提供：大阪医科薬科大学伊藤ゆり氏）

禁煙化は長期的視野で見て、ブランドイメージの向上、売上アップなどに繋がる

禁煙化したことでロイヤリティの高い顧客の集客に繋がったり、客単価や売上アップに成功したり、飲食店のブランドイメージを向上させることができるなど、今回の取材で意外と見えていなかった禁煙化のメリットが明らかになった。

特に顧客だけでなく従業員の健康を守ることは、長く安心して働いてもらうために経営者として必要な視点だろう。また、受動喫煙対策としてだけでなく感染症対策の側面からも禁煙化は有益のようだ。このほかにも禁煙化した飲食店のインタビューをまとめたWebページがあるので、気になる方はぜひチェックして欲しい。

■“屋内完全禁煙”飲食店の検索サイト「ケムラン」-ケムラン掲載店の禁煙化のヒント集-

■この記事に対する感想をお寄せください Googleフォームでご回答ができます

[提供・協力]大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室 伊藤ゆり
屋内完全禁煙の美味しい飲食店を応援する会 [Quemlin【ケムラン】](#)

※この記事は厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣対策総合研究事業「喫煙室の形態変更に伴う受動喫煙環境の評価及び課題解決に資する研究」班（研究代表者・大和 浩）の研究の一環として制作されました

この記事は役に立ちましたか？

**News**

公開 2023年4月14日

「吸う人も吸わない人も来てくれるようになった」大阪・天満の角打ちが禁煙にした理由

改正健康増進法の全面施行から3年。立ち飲みの聖地、大阪・天満の商店街に、わざわざ「喫煙可能店」に申請して認められていたのに、禁煙にした角打ちがあります。なぜ禁煙に踏み切ったのでしょうか？

by **Naoko Iwanaga**

岩永直子 BuzzFeed Medical Editor, Japan

立ち飲みの聖地、大阪・天満の商店街に、地元の人に80年以上愛される酒屋「稲田酒店」（1942年に酒類販売業免許取得）がある。午後1時から開く隣の角打ち（店内で買った酒が飲める酒店）は、夕方には満杯だ。



稲田酒店の角打ちスペース。元警察官と暴走族でやんちゃしたことがある人が並んで酒を酌み交わす面白い空間だ

Naoko Iwanaga / BuzzFeed



全国の銘酒が格安の小売価格で飲める上、出汁が染みた手作りのおでん（100円から）や、「鳥の玉ひも」「とらふぐ湯引き」（300円）などの酒に合う肴が呑兵衛を惹きつける。



充実した角打ちの肴メニュー
Naoko Iwanaga / BuzzFeed



広告

この角打ちが2020年4月の改正健康増進法全面施行のタイミングで禁煙にしてから、約3年が経った。

望まない受動喫煙（※）を防止する改正健康増進法によって、屋内施設は原則禁煙、20歳未満は喫煙エリアに立ち入り禁止となったが、例外措置も設けられた。

喫煙を目的とするバーやスナックは「喫煙目的店」（届け出不要）、改正前から営業している経営規模の小さな飲食店（資本金または出資の総額5000万円以下、客席面積100㎡以下）は「喫煙可能店」として申請できるのだ。

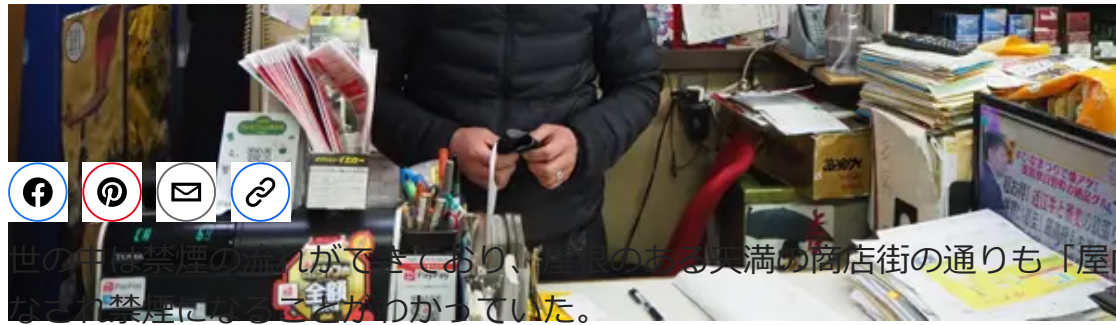
実は、この稲田酒店、「喫煙可能店」として申請し認められているにもかかわらず、禁煙に踏み切った。なぜなのだろうか？

※本人は吸っていないのに喫煙者の煙を吸い込むこと。肺がん、脳卒中、虚血性心疾患、子供のぜんそく、乳幼児突然死症候群（SIDS）などは受動喫煙との因果関係が確実とされ、日本では年間約1万5千人が受動喫煙で死亡していると推定されている。

「禁煙化」は時代の流れ

店主の稲田政秀さん（53）が、健康増進法改正のタイミングで店の禁煙に踏み切ったのは、「他の店も禁煙にするこのタイミングを逃すと、もう禁煙にはできないだろうな」と考えたからだ。





売し、自身も喫



世の中禁煙の流れができており、昔集った天満の商店街の通りも「屋内施設」とみなされ禁煙になることがわかってきた。

従業員には20歳未満の学生もいて、喫煙可能なままにしていると店内で働かせられなくなるのも痛かった。

「若い人はたばこを吸わないし、分煙が当たり前になっています。たばこを吸うのは今の時代、ジジイ、ババアぐらいだわね。時代が変わってきているのを感じていました」

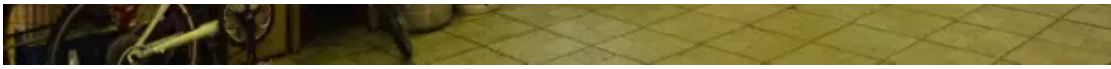
ただ、いざ禁煙に踏み切ってみると、最初は客離れも起きた。

「『ここ喫煙?』と聞かれて、『禁煙なんですわ』と言うと、『じゃあええわ』と帰ってしまう人もいる。でも昔からの常連さんは通い続けてくれたし、だんだんみんなたばこが吸えないことに慣れていきましたね」

元喫煙者も禁煙を歓迎

常連の元警察官の男性（62）は、店の禁煙化を歓迎する一人だ。元々焼酎派だったが、この店で美味しい日本酒が安く飲めるのにハマリ、呑兵衛の友人と誘い合わせて来るようになった。多い時は週6日、少なくとも週2～3回は通っている。





Naoko Iwanaga / BuzzFeed



実は自身も長年、1日にセブンスターを2箱吸うヘビースモーカーだった。

42歳の時に、覚せい剤取締法違反の疑いで逮捕した被疑者の取り調べを終え、喫煙室で一緒にたばこを吸ったのが最後の喫煙だった。

前科があるため、数年は刑務所に入ってたばこが吸えなくなるはずだ。反省し悔やむ被疑者に「今度こそ頑張れよ。俺もたばこ辞めるよ」と約束した。

「その後、何度も吸いたくはなったのですが、『あいつと約束したしな』と思ってやっぱり吸えなかった。律儀に守る必要はないかもしれないけど、何となくね」

禁煙して以来、人の吸うたばこの臭いが大嫌いになった。

「歩きたばこをしている人が前を歩いているのも嫌なのに、店内で隣の人が吸っているなんて耐えられない。日本酒の味も香りもわからなくなるでしょ。禁煙で煙がけえへんようになったのはすごくいいことですよ」と喜ぶ。



地元で生まれ育ち、50年以上呑みに通っているというイケダさん（右）とサカモトさん（左）。

Naoko Iwanaga / BuzzFeed



地元で生まれ育ち、50年以上呑みに通っているというイケダさん（72）も「自分も喫煙者なのに、僕は人の吸うたばこの煙は吸いたくないねん。禁煙になって快適よ。ま、わがままなんやな」と笑う。

働く人も快適に

改正健康増進法は、飲食店に来る客ももちろんだが、職場なので逃げようのない従業員の受動喫煙を防ぐことが大きな狙いの一つになっている。

角打ちの料理や接客を取り仕切る店主の母、俊子さん（81）は、呑兵衛たちが飲み過ぎたら「もうやめとき」と叱り、男性客が女性客に絡むと「あんた、話しかけたらいかんよ」と注意する。店の母のような存在だ。



角打ちの料理や接客を取り仕切る店主の母、俊子さん。

伊藤ゆりさん提供



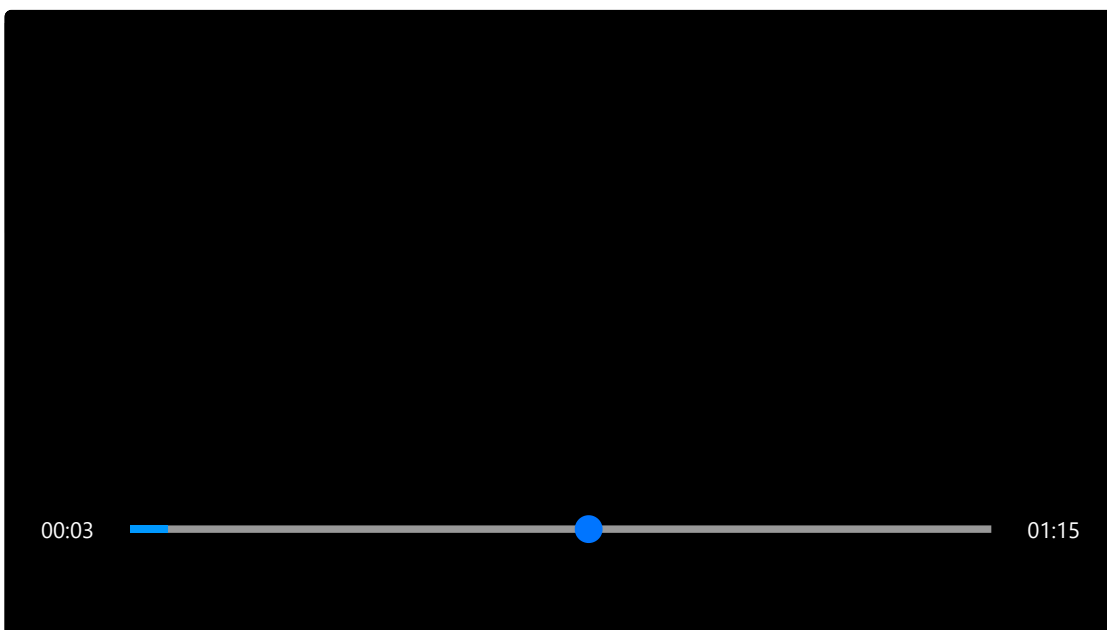
酒や肴を出しながら店の隅々まで気を配り、お客さんが楽しめるように心を砕く。接客する時間も長いため、店内でたばこが吸えた時は煙を吸い込むことによる体の不調に悩んだこともあった。

「昔ながらの紙巻きたばこを吸う人がいると喉に引っかかるようないがらっぽさが続いて気になっていました。禁煙にしてから空気がきれいになって気持ちよく働けるようになりましたよ」と話す。



大人気のおでん、ねぎま串。マグロとねぎの組み合わせだ

Naoko Iwanaga / BuzzFeed



何より嬉しいのは、「たばこの煙が嫌やから」と足が遠のいたお客さんがまた戻ってきてくれたことだ。

「たばこを吸う人も吸わない人も来てくれるようになりました。禁煙にして良かったです」

【提供・協力】大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室 伊藤ゆりさん 屋内完全禁煙の美味しい飲食店を応援する会 Quemlin【ケムラン】

※この記事は厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣対策総合研究事業「喫煙室の形態変更に伴う受動喫煙環境の評価及び課題解決に資する研究」班（研究代表者＝大和浩・産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学研究室教授）の研究の一環として制作されました。



Naoko Iwanaga

岩永直子 BuzzFeed Medical Editor, Japan

[Naoko Iwanaga naoko.iwanaga@buzzfeed.com](mailto:naoko.iwanaga@buzzfeed.com) に連絡する。

Got a confidential tip? 📩 [Submit it here](#)



別添資料3

News

公開 2023年4月17日

「他の店と差別化を図るために禁煙に」 大阪・北新地のスナック「蟻地獄」の経営戦略

大阪を代表する歓楽街、北新地にあるスナック「蟻地獄」はスナックには珍しく禁煙にしています。どんな狙いがあるのでしょうか？

by **Naoko Iwanaga**

岩永直子 BuzzFeed Medical Editor, Japan



一度足を踏み入れたら、ママの旭瞳さん（35）の魅力にズルズルと引きずり込まれていく。大阪を代表する歓楽街、北新地のど真ん中にそのスナック「蟻地獄」はある。スナックとしては珍しく、店内を禁煙にしてもう6年が経った。



大阪・北新地の禁煙スナック「蟻地獄」のママ、旭瞳さん。

Naoko Iwanaga / BuzzFeed



広告

第2の年金「年6回 分配」

みんなで大家さん

100万円以上

預金がある方限定!

みんなで大家さん

実績年利回り7.0% / 分配回数 年6回

※過去15年の実績に基づく ※利回りは税引前の実績値であり、将来の運用成果を保証するものではありません

ギフトカードキャンペーン

開く 5月31日までの期間限定!

「ここは3軒目に開いた店なのですが、地元の都島から新地に出てきた2軒目の時に、戦略的に禁煙にしたんです。新地に何のツテもないし、特徴や

強みがないと生き残れない。新地で唯一の存在、一軒しかない店を作ったかったんです」

ご新規さんは「禁煙スナック」で集客

望まない受動喫煙（※）を防止する改正健康増進法が2020年4月に全面施行されたことによって、飲食店などの屋内施設は原則禁煙になった。

※本人は吸っていないのに喫煙者の煙を吸い込むこと。肺がん、脳卒中、虚血性心疾患、子供のぜんそく、乳幼児突然死症候群（SIDS）などは受動喫煙との因果関係が確実とされ、日本では年間約1万5千人が受動喫煙で死亡していると推定されている。

だが、喫煙を主な目的とするバーやスナックは「喫煙目的店」、既存の小規模店は経過措置として「喫煙可能店」とすることができる。





「禁煙にするのに勇気はありました。昔から通ってくれるお客さんは外で吸ってくれるのですが、一見さんは禁煙とわかると帰ってしまう人もいます。『吸えたら通うのにな』というお客さんもいます。お酒とたばことカラオケってどうしてもセットになっているんですね」

でもそのうち、スナックの案内サイトに『禁煙スナック』と謳っているのを見て、『禁煙だから行きたい』と訪ねてくれるお客さんが増えてきた。初年度から黒字を維持している。

「今は新規のお客さんのほとんどは『禁煙』で集客しています。『たばこが嫌だ』という人を集める形ですね。多数派ではないけれど、『もうたばこで煙たい他のスナックでは無理』と常連になってくれる人もいます」

「肺が悪いので」と紹介文に書く理由

ただ、たばこを吸おうとする客に「外で吸ってください」と言うのは、勇気がある。社会的な地位やプライドが高いお客さんはなおさらだ。

「でもみんなに我慢してもらっているのに、その人だけ特別扱いはできません」

自身のInstagramの紹介文には、「肺が悪いので禁煙です」と書かれている。

「実はお客さん対策で書いているだけなんです（笑）。たまに『僕がおる間は貸切にするから店内で吸わせて』と言う傲慢な人もいる。その時に『すみませ〜ん。私、喘息で』とか『肺が悪いので』と軽めに言うと、角が立たずに諦めてくれる。うまく断るための方便です」

流行る・流行らないは吸える・吸えないとは関係ない

実はお客さんの半分ぐらいは現役の喫煙者だ。たばこが吸えなくてもママや店の魅力に惹かれて通ってくれる。



飾らない人柄がママの魅力。お客さんから「ひーとん」と呼ばれている。

Naoko Iwanaga / BuzzFeed



「一時的にお客さんが減ったとしても、その店が流行る・流行らんは、吸える・吸えないには左右されないのではないのでしょうか？ 美味しいお寿司

屋さんだったら、みんなお寿司を食べる間ぐらいたばこは我慢しますよね？」

「うちは低料金でもあるし、よそより絶対楽しいんちゃうかな。『お値段以上でニトリ』みたいなもんですわ（笑）。そこは、私も勝負をかけています」

自身も従業員もみんな禁煙

こうして自身の店を禁煙にしてみると、バーやスナック、狭い既存店为例外とする改正健康増進法の姿勢もおかしく感じるようになった。





「大きなクラブなら天井も高いし換気もいいし、お客さん同士の距離もあります。でもバーやスナックはお客さんが密接していて、横で吸われたら逃げようがありません。狭い店を例外とするのは受動喫煙防止の目的から言えば逆なのではないでしょうか？」

旭さん自身もかつて、1日一箱以上は必ず吸うヘビースモーカーだった。だが、店を禁煙にするのに合わせ、自身や従業員の女性たちも禁煙した。

「一緒に店に出ている母が元々たばこ嫌いで、『お客さんが吸うのは仕方ないけれど、あんたたちは吸うな』とよく言っていたんです。考えてみれば美容への影響もあるし、店を禁煙にするタイミングで全員吸うのをやめました」

自身も店も禁煙にしてみたら、体調が良くなったのも思わぬメリットだ。

「禁煙してからめっちゃ元気になりましたし、声も違います。翌日の体の軽さとか、楽さが全然違うんです。ストレスなく働ける環境になって、禁煙にして本当に良かったと思います」

【提供・協力】大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室 伊藤ゆり [屋内完全禁煙の美味しい飲食店を応援する会 Quemlin【ケムラン】](#)
[undefined](#)

※この記事は厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣対策総合研究事業「喫煙室の形態変更に伴う受動喫煙環境の評価及び課題解決に資する研究」班（研究代表者＝大和浩・産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学研究室教授）の研究の一環として制作されました。



Naoko Iwanaga

岩永直子 BuzzFeed Medical Editor, Japan



コロナ禍の飲食店 受動喫煙 対策Book

執筆協力

神戸大学・片岡葵 (P.2-3)
株式会社シンクロ・フード (P.4-7)
BuzzFeed Japan Medical 岩永直子 (P.8-13)
大阪大学・村木功 (p.14-15)

企画

屋内完全禁煙の美味しい飲食店を応援する会 Quemlin【ケムラン】
<https://quemlin.com>
大阪医科薬科大学・伊藤ゆり

デザイン・装丁
株式会社ガハハ

この冊子は厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣対策総合研究事業
「喫煙室の形態変更に伴う受動喫煙環境の評価及び課題解決に資する研究」班
(研究代表者・大和 浩)の研究の一環として制作されました。



【ケムラン】
屋内完全禁煙の美味しい飲食店を応援するサイト
【ケムラン】特別編集

コロナ禍の飲食店 受動喫煙 対策Book

お店、
禁煙に
しませんか？



CONTENTS

改正健康増進法の施行により
飲食店の禁煙化はどの程度進んだか
CASE1:新宿フリゴ/CASE2:福田バー
CASE3:稲田酒店/CASE4:蟻地獄
ウィズコロナ時代の飲食店の感染対策
受動喫煙対策クイズ

改正健康増進法の施行により、飲食店の禁煙化はどの程度進んだか

受動喫煙に関する法律について

受動喫煙とは、周りの人が吸うたばこの煙、たばこを吸う人が吐き出した煙を吸い込んでしまうことである。たばこの煙には有害な物質が多く含まれているため、望まない受動喫煙により、たばこを吸わない人であっても、有害な物質を吸い込む危険がある。

この望まない受動喫煙から皆さんを守るために、2020年4月に改正健康増進法が施行された。この法律改正では、施設の種類・場所に応じた受動喫煙対策が定められており、学校や病院、行政施設は敷地内禁煙に、飲食店は「原則屋内禁煙」となっている。

注意して欲しいこととして、飲食店の場合は全面禁煙

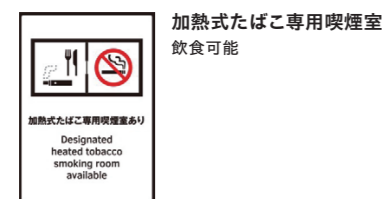
ではない。例外的に屋内で喫煙可能な飲食店が存在する。ただ、喫煙可能な環境が飲食店内にある場合、20歳未満の人は喫煙可能エリアへの立ち入りが禁じられており、これはアルバイトで働いている従業員も同様である。

室内に喫煙可能な場所がある飲食店は、店頭以下のような、標識の掲示が義務付けられている。

原則屋内禁煙となったとはいえ、屋内で喫煙可能な場所がある飲食店は数多く存在する。この法律改正によって、飲食店の禁煙化はどの程度進んだのだろうか？望まない受動喫煙から、飲食店で働く皆さんの健康が守られる環境になっているのだろうか？

図1: 屋内で喫煙可能な飲食店が店頭に掲示する標識

各飲食店の判断により、店内に設置できる標識



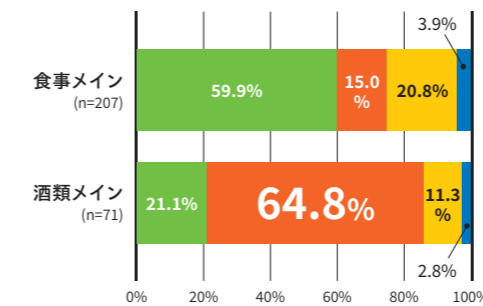
飲食店での禁煙化は進んだ？

東京都・大阪府・青森県で営業する飲食店にアンケートを配布し、法律の改正前、改正直後、改正1年後の飲食店内の喫煙状況を調べた。法律による規制を受けない小規模な飲食店＝標識の掲示により、分煙・喫煙が選択できる飲食店のうち、屋内が全面禁煙の飲食店は、改正前：50.4% (140/278)⇒改正直後：68.7% (191/278)⇒改正1年後：71.9% (200/278)と年々増加していた。

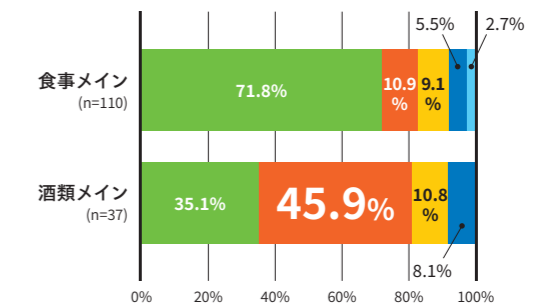


図2: 業種ごとの屋内喫煙環境の変化

法律の規制を受けない飲食店 (n=278)



法律の規制を受ける飲食店 (n=147)



厚生労働科学研究費補助金(循環器・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「受動喫煙防止等のたばこ対策のインパクト・アセスメントに関する研究」(研究代表者:中村正和)の助成にて2021年度に実施したアンケート調査の結果より作成

お酒を提供する飲食店では禁煙化が進みにくい…

法律の改正により飲食店の禁煙化は進んでいるようである。では、飲食店の業種によって、禁煙化の進み具合に違いはあるのだろうか？

食事をメインで提供する飲食店、酒類をメインで提供する飲食店を分けて、法律改正前後での、店内の喫煙状況の変化を調べてみた。法律による規制を受けない小規模な飲食店のうち、酒類をメインで提供する飲食店の64.8% (46/71) が、法律改正の前後で一貫して分煙・喫煙可能を継続していた。また法律による規制を受ける飲食店＝本来全店舗禁煙化が必要な飲食店についても、酒

類をメインで提供する飲食店の45.9% (17/37) が法律に反して分煙・喫煙を継続している可能性があった。

酒類をメインの提供する飲食店で禁煙化が進みにくい背景には、禁煙化により客数や売り上げが減少する懸念があるかもしれない。また特に、酒類を提供するバーやパブなどは、法律による規制を受けない小規模な飲食店に該当する可能性が高い。これらの店舗は標識の掲示により分煙・喫煙を自由に選ぶことが出来るため、積極的な禁煙化が進みにくい可能性がある。

今後の受動喫煙対策を考える上で大切なこと

今回の法律改正の主な目的は、望まない受動喫煙から人々を守ること、である。しかし残念なことに、飲食店には数多くの例外があり、いまだ屋内で喫煙可能な環境が多く残っている。喫煙可能な環境が残っている以上、望まない受動喫煙を完全に防ぐことはできない。たばこを吸わないお客さんはもちろん、喫煙室の清掃をする人々や、喫煙可能な環境がある飲食店内で働く従業員の

健康が脅かされる可能性がある。何が禁煙化を妨げるハードルとなるのか、禁煙化に向けてどんな支援や環境整備が必要なのかを、飲食店の皆さんと考えていきたい。そして将来的には、望まない受動喫煙をどの飲食店でも防げるような、包括的な法律が整備されることを期待している。

禁煙化で働く人の健康を守れ、 かつ来店客の過ごし方にも 嬉しい変化が

CASE1 新宿フリゴ

「お酒と喫煙って、やっぱり切り離せないと思うんですよ」と打ち明けるのは新宿駅南口、甲州街道沿いでベルギービール専門店『フリゴ』の店長を務める荒木健一郎氏。お酒が主体の店ということもあり、以前は全席喫煙可能で、来店客の3~4割が喫煙者だった。アイリッシュパブという雄々しいイメージ、そして客層は30代後半~50代の男性が多いというのも喫煙者の割合が比較的高かった理由かもしれない。週末ともなると、タバコの吸い殻がトマト缶いっぱいになるほど喫煙者が多かった。しかしここ5~10年ほどで、客の声にも変化が見られたという。

「『横の人がタバコを吸っているからこの席は嫌です』とか『タバコの臭いが漂わない場所はどこですか』という副流煙を嫌う声結構あって」と喫煙に対する懸念の声が増えてきていたと話す。さらにこういった声は働くスタッフからもあった。「カウンターの人がタバコを吸っているから、その人の前に立ちたくない」「タバコの臭いがつくのが嫌」などの意見が増え、荒木氏は段々と禁煙化について考えるようになったという。「ここ数年で喫煙者の数自体が減っているという実感もあり、禁煙化のタイミングを窺っていた。2020年4月の法律施行を機に禁煙化に踏み切りました。同じように法律の施行があったから、禁煙に変えられたというお店も多いと思います」

気になるのは、禁煙化による客入りや売上の変化だ。とはいえ禁煙化してすぐに緊急事態宣言が発出されたため「正直わからない」と話す。喫煙者からの反応について伺うと、「『タバコが吸えなくなったんですか?』と聞かれることもあって。そういう人たちの1~2割は喫煙できないと知って帰っていきますね。嫌味っぽく『もう来ない』と言われることもあります。これまで2~3杯お酒を飲んでいた



禁煙化にあたってはSNSでの告知のほか、店内や店外のポップで「全席禁煙」と周知



『フリゴ』の店長を務める荒木健一郎氏



店内にはベルギーを中心にヨーロッパのビールを常時160種類並び、専用のコースターとグラスでビールが提供される

人が1杯飲んで『吸えないからほかのお店に行く』ということもありました」と、やはり懸念していた事態も少なからず起こっているという。実際、店から徒歩2~3分の場所には全面喫煙可能な飲食店もあり「タバコを目的としている喫煙者はそちらに流れているのではないか」との見方を示す。

そんな喫煙者からの声がありつつも荒木氏は「禁煙化して良かった」と、今回の自身の決断に納得感を示す。その理由について尋ねると「やっぱりタバコの煙に邪魔されることなく、もっと純粋に食事やビールを味わってもらいたい」という思いがあった。

実際、禁煙化以前より来店していた非喫煙者の方が頻繁に訪れるようになったり、滞在時間が延びたり、よりよく使ってもらっているという実感があると話す荒木氏。働くスタッフからも「快適に働けるようになった」という声が聞かれ、改正健康増進法の目的であった「働く人の健康を守る」を達成できているようだ。



新宿フリゴ / 東京都渋谷区

<https://quemlin.com/detail/?id=1048>



「喫煙可能でも禁煙でも客足は変わらない」

感染症対策も後押しとなり禁煙化

CASE2 福田バー

禁煙化に転じた経緯は「法改正を機に」という飲食店が多い中、異なる理由で禁煙化に踏み切った飲食店もある。大阪・高槻で1991年に創業したオーセンティックバー『福田バー』だ。

「大阪府から喫煙者は店内の一か所にまとめるよう要請があり、新型コロナウイルス感染の危険性が高まると感じ、全面禁煙に踏み切りました」と、感染症対策の一環で禁煙化したと店主の福田豊氏は明かす。実際、店舗の入口に

は「コロナ対策のために禁煙しています」という張り紙が掲示されている。

「いずれは禁煙にせなあかんと考えていたのですが、周りに気を遣いながら吸ってくれる常連さんもいて、なかなか踏み切れず。とはいえお店の構造上分煙も難しいし、タバコの煙が非喫煙者の方に行かないよう気遣うのも嫌で。今回のコロナ禍を機に2021年11月に全席禁煙にしました」



大阪・高槻のオーセンティックバー『福田バー』の店主・福田豊氏。

オーナーからは「儲からないし、禁煙は反対」と言われたそうだが、ギャルソンやバーマンなど現場のスタッフからは「禁煙に賛成」という声が聞かれ、後押しとなったという。禁煙化と合わせ、アクリル板やビニールシートを設置するなど、感染症対策も徹底。完全禁煙の飲食店は、こうした感染症対策に対する自己評価も高く、自信を持ってお客さんを迎え入れているという見方もある。

バー業態は喫煙可能な店が多い中、禁煙に踏み切ったこ

とでデメリットはなかったかと尋ねると「禁煙にする前から喫煙者も2〜3割に減っていましたが、特になかったです」と福田氏。

「タバコを吸う人とか、たくさん飲んで騒いだりする人の方がお酒も頼むので、禁煙にしたら売上はちょっと減るだろうと思いましたが、別にそんなのいいかなくて。実際、禁煙にしてから『吸えないならほか行くわ』っていう人もいましたが、そういう人は別に来てもらわなくていいかな、と。もしお店に本当に来たいなら、1〜2時間くらい喫煙を我慢してくれると思いますので」

禁煙化後の客足も気になるが「タバコを吸う人がいっぱいいたら、吸わない人が来なくなるので、結局喫煙可能でも禁煙でも客足は変わらないと思う。サービスするならマナーの良い人たちにしていきたい」と福田氏。その真摯な姿勢は常連にも伝わっているのか、マナーの良い喫煙者は禁煙になってからも来店しており、外の喫煙所でタバコを吸うなどしてお店では喫煙していない。

禁煙化はスタッフからも評判だ。「以前より快適そうに働いていますね。喫煙可能な時代は、スタッフがマナーの悪い喫煙者に注意しなくてはいけませんでした。そういったトラブル自体減ったので、スタッフの負担も減ったと思います」と禁煙化に伴い、店の風紀も良くなったと話す。『福田バー』の一連の対策は、感染症や受動喫煙から従業員や来店客の健康を守るだけでなく、トラブルを防ぎ、お店で過ごす人たちに安心・安全に過ごしてもらうための心がけにも思えた。



『福田バー』の店内。アクリル板を設置するなど感染症対策も徹底





稲田酒店の角打ちスペース。夕方には押し合いし合いになる。

「吸う人も吸わない人も来てくれるようになった」 大阪・天満の角打ちが禁煙にした理由

CASE3 稲田酒店

立ち飲みの聖地、大阪・天満の商店街に、地元の人に80年以上愛される酒屋「稲田酒店」(1942年に酒類販売業免許取得)がある。午後1時から開く隣の角打ちは夕方に満杯だ。

全国の銘酒が格安の小売価格で飲める上、出汁が染みた手作りのおでん(100円から)や、「鳥の玉ひも」「とらふく湯引き」(300円)などの酒に合う肴が呑兵衛を惹きつける。この角打ちが2020年4月の改正健康増進法全面施行のタイミングで禁煙にしてから3年が経った。

地元で生まれ育ち、50年以上呑みに通っているというイケダさん(72)は「自分も喫煙者なのに、僕は人の吸

うたばこの煙は吸いたくないねん。禁煙になって快適よ。ま、わがままなんやな」と笑う。

望まない受動喫煙を防止する改正健康増進法によって、屋内施設は原則禁煙、20歳未満は喫煙エリアに立ち入り禁止となったが、例外措置も設けられた。喫煙を目的とするバーやスナックは「喫煙目的店」(届け出不要)、改正前から営業している経営規模の小さな飲食店(資本金または出資の総額5000万円以下、客席面積100㎡以下)は「喫煙可能店」として申請できるのだ。

実は、この稲田酒店、「喫煙可能店」として申請し認められているにもかかわらず、禁煙に踏み切った。なぜなのだろうか？



客から「まーちゃん」の愛称で知られる店主の稲田政秀さん。店ではたばこも販売し、自身も喫煙者だ。

「禁煙化」は時代の流れ

店主の稲田政秀さん(53)が、健康増進法改正のタイミングで店の禁煙に踏み切ったのは、「他の店も禁煙にするこのタイミングを逃すと、もう禁煙にはできないだろうな」と考えたからだ。世の中は禁煙の流れができており、屋根のある天満の商店街の通りも「屋内施設」とみなされ禁煙になることがわかっていった。

従業員には20歳未満の学生もいて、喫煙可能なままにしていると店内で働かせられなくなるのも痛かった。

「若い人はたばこを吸わないし、分煙が当たり前になっています。たばこを吸うのは今の時代、ジジイ、ババアぐらいだね。時代が変わってきているのを感じていました」ただ、いざ禁煙に踏み切ってみると最初は客離れも起きた。

『「ここ喫煙？」と聞かれて、『禁煙なんですわ』と言うと、『じゃあええわ』と帰ってしまう人もいる。でも昔からの常連さんは通い続けてくれたし、だんだんみんなたばこが吸えないことに慣れていきましたね』

常連の藤井一宏さん(62)も店の禁煙化を歓迎する一人だ。元々焼酎派だったが、この店で美味しい日本酒が安く飲めるのにハマり、呑兵衛の友人と誘い合わせて来るようになった。多い時は週6日、少なくとも週2~3回は通っている。

自身も長年1日にセブンスターを2箱吸うヘビースモーカーだったが、42歳の時に禁煙して以来、人の吸うたばこの臭いが大嫌いになった。

「歩きたばこをしている人が前を歩いているのも嫌なのに、店内で隣の人が吸っているなんて耐えられない。日本酒の味も香りもわからなくなるでしょ。禁煙で煙がけえへんようになったのはすごくいいことですよ」と喜ぶ。

働く人も快適に

改正健康増進法は、飲食店に来る客ももちろんだが、職場なので逃げようのない従業員の受動喫煙を防ぐことが大きな狙いの一つになっている。

角打ちの料理や接客を取り仕切る店主の母、俊子さん(81)は、呑兵衛たちが飲み過ぎたら「もうやめとき」と叱り、男性客が女性客に絡むと「あんた、話しかけたらいかんよ」と注意する、店の母のような存在だ。酒や肴を出しながら店の隅々まで気を配り、お客さんが楽しめるように心を砕く。接客する時間も長いため、店内でたばこが吸えた時は煙を吸い込むことによる体の不調に悩んだこともあった。

「最近ではたばこの質も上がっているようですが、昔ながらの紙巻きたばこを吸う人がいると喉に引っかかるようながらっぽさが続いて気になっていました。禁煙してから空気がきれいになって気持ちよく働けるようになりましたよ」と話す。

何より嬉しいのは、「たばこの煙が嫌やから」と足が遠のいたお客さんがまた戻ってきてくれたことだ。「たばこを吸う人も吸わない人も来てくれるようになりました。禁煙にして良かったです」



角打ちの接客を取り仕切る店主の母、俊子さん。



酒販の店舗(右)と隣り合う角打ち(左)に今日も呑兵衛が吸い込まれていく。

詳細の記事はこちら

<https://www.buzzfeed.com/jp/naokoiwanaga/quemlin-tenma>



稲田酒店 / 大阪市北区

<https://quemlin.com/detail/?id=1046>



「他の店と差別化を図るために禁煙に」 大阪・北新地のスナック「蟻地獄」の経営戦略

CASE4 蟻地獄

一度足を踏み入れたら、ママの旭瞳さん(35)の魅力にズルズルとハマっていく。大阪を代表する歓楽街、北新地のど真ん中にそのスナック「蟻地獄」はある。スナックとしては珍しく、店内を禁煙にしよう6年が経った。「ここは3軒目に開いた店なのですが、地元の都島から新地に出てきた2軒目の時に、戦略的に禁煙にしたんです。新地に何のツテもないし、特徴や強みがないと生き残れない。新地で唯一の存在、一軒しかない店を作りたいからです」

ご新規さんは「禁煙スナック」で集客

望まない受動喫煙を防止する改正健康増進法が2020年4月に全面施行されたことによって、飲食店などの屋内施設は原則禁煙になった。

だが、喫煙を主な目的とするバーやスナックは「喫煙目的店」、既存の小規模店は経過措置として「喫煙可能店」とすることができる。

「禁煙にするのに勇気はありました。昔から通ってくれ



禁煙のスナック「蟻地獄」のママ、旭瞳さん



旭さんが好きなマリリン・モンローの写りが店内中に飾られている。

るお客さんは外で吸ってくれるのですが、一見さんは禁煙とわかれると帰ってしまう人もいます。『吸えたら通うのにな』と言うお客さんもいます。お酒とたばこカラオケってどうしてもセットになっているんですね」

でもそのうち、スナックの案内サイトに『禁煙スナック』と謳っているのを見て、『禁煙だから行きたい』と訪ねてくれるお客さんが増えてきた。初年度から黒字を維持しています。『たばこが嫌だ』という人を集める形ですね。多数派ではないけれど、『もうたばこで煙い他のスナックでは無理』と常連になってくれる人もいます」

「肺が悪いので」と紹介文に書く理由

ただ、たばこを吸おうとする客に「外で吸ってください」と言うのは勇気がいる。社会的な地位やプライドが高いお客さんはなおさらだ。「でもみんなに我慢してもらっているのに、その人だけ特別扱いはできません」自身のInstagramの紹介文には、「肺が悪いので禁煙です」と書かれている。「実はお客さん対策で書いているだけなんです(笑)。たまに『僕がおる間は貸切にするから店内で吸わせて』と言う傲慢な人もいます。その時に『すみませ〜ん。私、喘息で』とか『肺が悪いので』と軽めに言うと、角が立たずに諦めてくれる。うまく断るための方便です」

流行る・流行らないは 吸える・吸えないとは関係ない

実はお客さんの半分ぐらいは現役の喫煙者だ。たばこが吸えなくてもママや店の魅力に惹かれて通ってくれている。「一時的にお客さんが減ったとしても、その店が流行る・流行らないは、吸える・吸えないには左右されないのではないでしょうか？ 美味しいお寿司屋さんだったら、みんなお寿司を食べる間ぐらいたばこは我慢しますよね？」

「うちは低料金でもあるし、よそより絶対楽しいんちゃうかな。『お値段以上でニトリ』みたいなもんですわ(笑)。そこは、私も勝負をかけています」

自身も従業員もみんなで禁煙

こうして自身の店を禁煙にしてみると、バーやスナック、狭い既存店を例外とする改正健康増進法の姿勢もおかしく感じるようになった。「大きなクラブなら天井も高いし換気もいいし、お客さん同士の距離もあります。でもバーやスナックはお客さんが密着して横で吸われたら逃げようがありません。狭い店を例外とするのは、受動喫煙防止の目的から言えば逆なのではないでしょうか？」

旭さん自身もかつて、1日一箱以上は必ず吸うヘビースモーカーだった。だが、店を禁煙にするのに合わせ、自身や従業員の女性たちも禁煙した。「一緒に店に出ている母が元々たばこ嫌いで、『お客さんが吸うのは仕方ないけれど、あんたたちは吸うな』とよく言っていたんです。考えてみれば美容への影響もあるし、店を禁煙にするタイミングで全員吸うのをやめました」

自身も店も禁煙にしてみたら、体調が良くなったのも思わぬメリットだ。「禁煙してからめっちゃ元気になりましたし、声も違います。翌日の体の軽さとか、楽さが全然違うんです。ストレスなく働ける環境になって、禁煙にして本当に良かったと思います」



飾らない人柄がママの魅力。お客さんから「ひーとん」と呼ばれている。

詳細の記事はこちら

<https://www.buzzfeed.com/jp/naokoivanaga/quemlin-arjigoku>



蟻地獄 / 大阪市北区

<https://quemlin.com/detail?id=1047>



クイズで学ぶ

改正健康増進法による 飲食店の受動喫煙対策

いくつ正解
できるか、
チャレンジ!

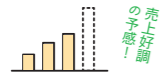


「望まない受動喫煙」をなくすため、健康増進法が改正されました。
特に、たばこにより健康が害されやすい人(子どもや妊婦、患者など)、
業務に当たる従業員への配慮が必要となりました。
健康増進法による飲食店の受動喫煙対策について、
次の○×クイズに答えてみましょう。

飲食店の受動喫煙対策 クイズ

- Q1 受動喫煙防止のため、すべての飲食店は「屋内禁煙」が原則である。 ()
- Q2 食事を提供する飲食店で、客席面積100m²を超える場合、喫煙専用室・屋外を除き、紙巻きたばこを吸うことはできない。 ()
- Q3 2020年4月1日以降に開店した飲食店では、客席面積100m²以下の場合、「全席喫煙可」として営業できる。 ()
- Q4 「全席喫煙可」として営業する場合、喫煙可能な設備に応じた標識を店頭に掲示しなければならない。 ()
- Q5 20歳未満の従業員による喫煙席での短時間の接客は認められている。 ()
- Q6 「加熱式たばこ専用喫煙室」は、飲食禁止である。 ()
- Q7 「喫煙目的店」として登録すれば、食事も提供する居酒屋は喫煙可能な店として営業できる。 ()
- Q8 喫煙専用室等の構造・機能についての基準が定められている。 ()
- Q9 法令違反者には、指導が行われ、なお改善しない場合には罰則が科される。 ()

9個全問正解の
あなたは…



売上高
の予感!

6～8個正解の
あなたは…



もしか
専門家?

3～5個正解の
あなたは…



で
かんは
った

0～2個正解の
あなたは…



ナ
イス
チ
ャ
レ
ン
ジ
!

答えと解説

Q1

受動喫煙防止のため、すべての飲食店は「屋内禁煙」が原則である。

正解は○です。屋内禁煙は、屋内での受動喫煙を防ぐ唯一の方法ですので、すべての飲食店が「屋内禁煙」を原則です。例外として、喫煙専用室の設置などがあります。従来から営業している飲食店の特例は、当面の措置ですので、「屋内禁煙」を目指した運営が求められています。(参考1：ポイント1 様々な施設において、屋内が原則禁煙となります)

Q2

食事を提供する飲食店で、客席面積100m²を超える場合、喫煙専用室・屋外を除き、紙巻きたばこを吸うことはできない。

正解は○です。資本金5000万円超または客席面積100m²超の飲食店は、「屋内禁煙」としなければなりません。屋外に喫煙場所を設置する場合、トラブルを避けるため、屋内や近隣へご配慮ください。(参考1：ポイント4 既存の経営規模の小さな飲食店への経過措置について)

Q3

2020年4月1日以降に開店した飲食店では、客席面積100m²以下の場合、「全席喫煙可」として営業できる。

正解は×です。2020年4月1日以降に開店した飲食店では、客席面積によらず、「屋内禁煙」です。2020年4月1日以前から営業している飲食店も経営状況の変化により既存の飲食店に該当しなくなる場合がありますので、ご注意ください。(参考1：ポイント4 既存の経営規模の小さな飲食店への経過措置について。参考2：Q&A)

Q4

「全席喫煙可」として営業する場合、喫煙可能な設備に応じた標識を店頭に掲示しなければならない。

正解は○です。喫煙可能な設備を持った施設には、指定標識の掲示が義務付けられており、紛らわしい標識の掲示などは禁止されています。(参考1：ポイント6 喫煙室への標識の掲示義務について)

Q5

20歳未満の従業員による喫煙席での短時間の接客は認められている。

正解は×です。従業員を含め20歳未満の人は、喫煙エリアへは一切立入禁止です。また、年齢を問わず、経営者や従業員への受動喫煙防止対策も求められています。従業員の募集や求人申込みの際に、店舗での受動喫煙対策を伝える必要があります。(参考1：ポイント7 20歳未満の方は、喫煙エリアへは立入禁止に)

Q6

「加熱式たばこ専用喫煙室」は、飲食禁止である。

正解は×です。「加熱式たばこ専用喫煙室」では、飲食は認められていますが、厚生労働大臣が指定したたばこ以外の喫煙は認められていません。近年、加熱式たばこの有害性の報告が増えていることから、「加熱式たばこ専用喫煙室」の設置には注意が必要です。(参考1：ポイント2 屋内において喫煙が可能となる、各種喫煙室があります)

Q7

「喫煙目的店」として登録すれば、食事も提供する居酒屋は喫煙可能な店として営業できる。

正解は×です。「喫煙目的店」では、食事の提供は認められていません。認められるのは、アルコール類とそれに沿える料理(主食を含まない)が原則です。(参考1：ポイント2 屋内において喫煙が可能となる、各種喫煙室があります)

Q8

喫煙専用室等の構造・機能についての基準が定められている。

正解は○です。「喫煙専用室」等には、たばこの煙が屋内へ流出しないための技術的基準が定められています。基準を満たさない場合、罰則の対象となります。(参考1：ポイント3 たばこの煙の流出防止にかかる技術的基準)

Q9

法令違反者には、指導が行われ、なお改善しない場合には罰則が科される。

正解は○です。義務違反には、まず「指導」が行われます。指導に従わない場合等には、内容に応じて勧告・命令等を行い、改善が見られない場合、罰則(過料)が科されます。(参考1：ポイント9 義務違反時の指導・命令・罰則の適用について。参考2：改正健康増進法における義務内容及び義務違反時の対応について)

参考

1.厚生労働省
「なくそう!望まない受動喫煙」Webサイト
<https://jyudokitsuen.mhlw.go.jp/point/>



2.厚生労働省「受動喫煙対策」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000189195.html>

